

皆様

平成 25 年 12 月 8 日

本日はタクロバンと同じく多くの被害者を出したタナウワンの調査を行いました。海岸沿いの低平地に密集した木造住宅街が広がっており、被害が大きかったと思います。

【タナウワン南部】

（この部分のみ十数センチ程度の潮位補正ができていませんので、確定値はしばらくお待ちください）

浸水高

4.97m（第一波、木の枝） N11°04.630' E125°01.973'

7.66m（第二波、木の枝） N11°04.631' E125°01.969'

4.42m（家の中） N11°04.637' E125°01.992'

3.46m（道路を越えた家の中） N11°04.584' E125°01.840'

【タナウワン北部】

パームオイルの製造工場で、空のタンクが流された。

浸水高

6.09m （工場の玄関の上） N11°06.332' E125°01.274'

私はここで本隊から離脱して、残りの調査の指揮は松丸隊長代行（東洋大学教授）、高木副隊長（東工大准教授）に託しました。

以下、柴山調査隊を離れられたあとの計測結果です。

2 カ所の計測を行いました。

【Anibong（タクロバン市）】

1 カ所目の Anibong は、タクロバン港の南西に位置するところで、小規模な住宅が密集していた地域が高潮被害を受けています。海からの勾配がきついで、浸水範囲は限られていますが、浸水した範囲は壊滅的な状況でした。また、ここは、貨物船が数艘打ち上げられています。

高潮高の計測は、メイン道路沿いの家屋に住んでいる人の証言とうっすらと残っていた痕跡をもとに行いました。

5.59m（家屋内） N11°15.138' E124°59.446' （12 月 8 日 13:32 計測、潮位補正前）

【Hotel Alejandro 周辺（タクロバン市）】

この日の最後は、タクロバン市内の Hotel Alejandora 付近にて計測を行いました。

計測は、台風時のこのホテル付近の状況を撮影したビデオをもとに聞き取りを行い、ビデオに映っている家族から直接証言を得ることができました。

ビデオを確認しながら証言を検証した結果、ホテル前の家屋内での浸水高は、以下の通りです。

Paterno Extention, Tacloban City

4.29m（ホテル前家屋内） N11°14.474' E125°00.225' （12 月 8 日 15:35 計測、潮位補正前）

聞き取りをした家族の話では、浸水は朝 7 時半ごろから始まり、水位がどんどん上がってきたので、奥さんが、腰の高さ（90cm）まで水が来た時に避難をしようと決意し、家族はそれに従って Alejandora に避難をしたとのことでした。

柴山知也（調査隊長）

松丸 亮（調査隊長代行）

三上貴仁